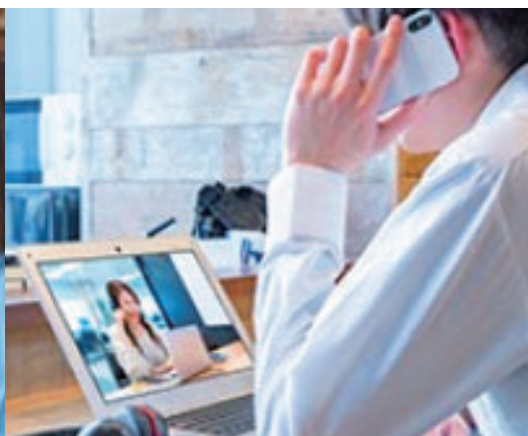


多様な人材が輝く新しい働き方

ショートタイムテレワーク



自宅や近所の
コワーキングスペースで



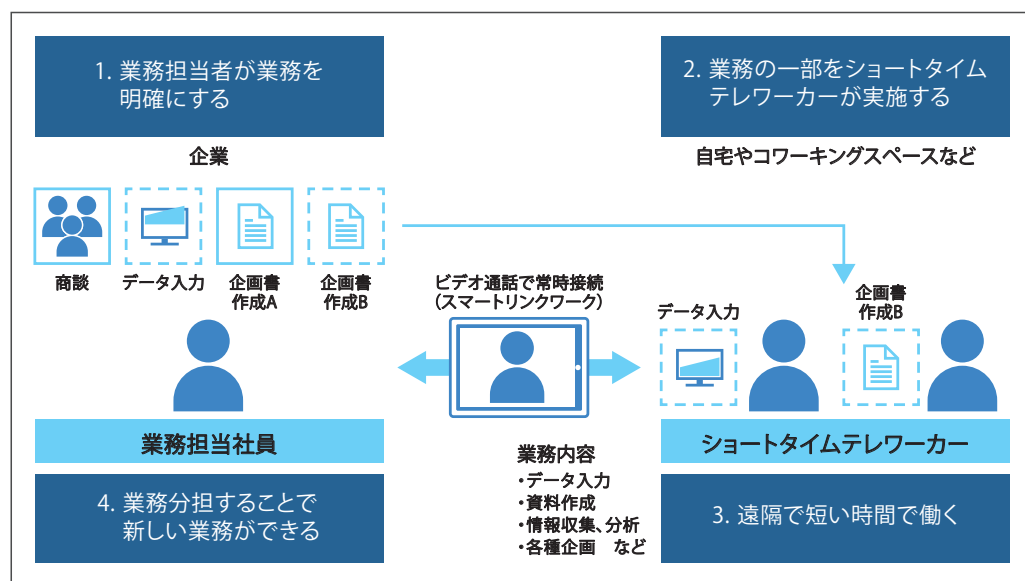
ICTの活用で
遠隔コミュニケーション



短い時間で
育児や介護と両立

ショートタイムテレワークとは？

従来のテレワークやクラウドソーシングなどと異なり、パソコンやスマートフォン、タブレットなどのICT機器を活用し、自宅や近隣ワーキングスペースで、週8時間程度の超短時間勤務を行う、時間や場所に縛られない新しい雇用・就労形態です。



ショートタイムテレワークの はじまり

当社のCSRの注力領域に「次世代育成」「多様な社会への対応」があります。

障がいにより長時間勤務が困難な方でも週20時間未満で就業できる「ショートタイムワーク制度」を2015年度に発足。

業務定義によるワークシェアの考え方に、「ICT機器を活用した在宅勤務のシステム」を組み合わせることで、多様な人々の課題解決につながる働き方を目指しました。

向洋電機土木株式会社

会社案内

代表取締役 倉澤俊郎
 所在地:横浜市南区井土ヶ谷下町16-6
 HP:<http://www.kouyo-dd.jp>
 設立:昭和40年3月
 業種:建設業(電気設備設計・施工)
 従業員数:39名(男性25名、女性14名)



実施概要

実施期間:2020年3月1日~2020年8月31日
 雇用人数:3名
 雇用形態:アルバイト契約
 勤務日数:2日/週
 勤務時間:10時~15時(実働4時間)
 勤務場所:自宅・コワーキングスペース
 ※コロナ禍の影響でコワーキングスペースclose後は自宅



導入実施の背景

2009年頃から男性社員にも育児休暇取得を推奨、介護や育児を行う社員にテレワークを認めるなど、常に社員のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方を推進しています。2010年には「働きやすく子育てしやすい企業」として横浜市の「よこはまグッドバランス賞」を受賞、2019年には同賞の特別賞を受賞しました。

また社内でのテレワークの推進のみならず、社外へのテレワークの推進、普及活動についてもその取り組みが認められ、2015年度 テレワーク推進企業等厚生労働大臣表彰(輝くテレワーク賞)個人賞、その後、2018年度テレワーク先駆者100選 総務大臣賞を受賞しており、「新しい働き方」を常に先取りする試みとして、ショートタイムテレワークを実施することになりました。



ワーカーの募集から雇用開始まで

事前説明会を開催

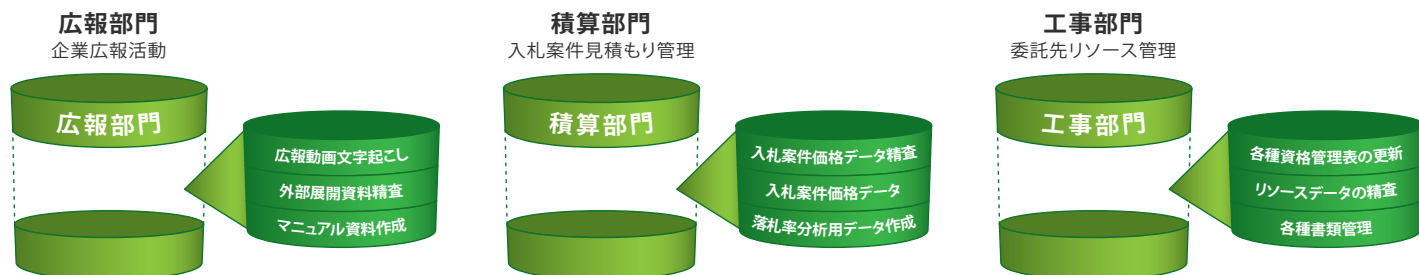
横浜市と東急電鉄による「次世代郊外まちづくり」の取り組みにより、募集地域は東急田園都市線沿線の「たまプラーザ駅北側地区」を選定。
 事前説明会を開催し、地域住民に募集概要をご案内しました。

入社前オリエンテーションを実施

3名の雇用に対し20名近くの問合せ・応募となり、地域住民の関心の高さが浮き彫りとなりました。
 入社前オリエンテーションをコワーキングスペースで実施。企業からの入社手続きなどのレクチャーを受けました。

ワーカーへの業務の払い出し細分化

資料作成やデータ処理など社員が従来行っていた業務を一部担うことで、社員は本来の業務に専念でき、また新たな業務に着手する時間を創出することができます。



コミュニケーションギャップの大幅な軽減

WEBカメラの常時接続と、さまざまなアプリのコミュニケーションツールを利用することで、あたかも机を並べて業務を行っているかのような「共に働く」環境を実現。

1日の業務の流れ

- 業務開始** | メールやチャットなどで始業のあいさつ
- 業務依頼** | メール、slack、Dropboxなどで資料共有、依頼指示
- 質疑応答** | Webカメラ常時接続でオンタイムの会話、質疑応答
- 業務終了** | メールやチャットなどで終了のあいさつ



関係者の声・導入効果

資料作成やデータ処理など社員が従来行っていた業務を一部担うことで、社員は本来の業務に専念でき、また新たな業務に着手する時間を創出することができます。

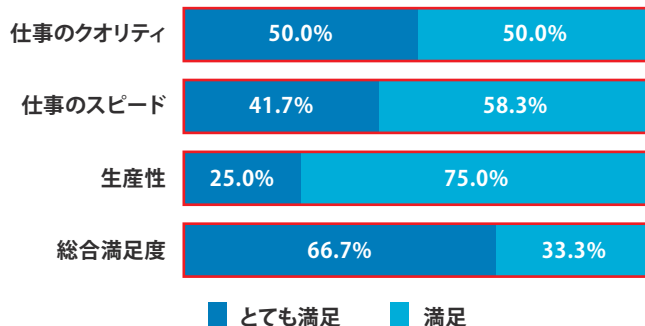
ワーカー

家庭との両立を図りながら無理なく社会参加できました。充実感を得ることができ、生活にメリハリができました。

受入担当者

切り分けられた業務の一部を担って頂く事で削減できた時間で、新たな取り組みや、よりきめ細やかな業務をこなすことができ、大変ありがたかったです。

働き手・雇い手ともに満足度 **100%**



向洋電機土木株式会社 CHO 広報部 部長 横澤氏

ショートタイムテレワークに取り組むというタイミングでコロナ禍となり、社会全体がテレワークを行わなければ機能しないという状況下でスタートしたので、より効果が期待された中で、雇用が維持できずに社会参加の道が強制的に閉じられたパターンを沢山見ました。これからBPRを進める上で、絶対に必要ピースである事は間違いないです。

ショートタイムテレワーク 実証実験（横浜市）

2019年3月より横浜市と連携し、実証実験を行いました。横浜市は2018年に国からSDGs未来都市に選定され、SDGsのゴールの達成に資する環境・経済・社会の3側面の統合的解決に向けた様々な取り組みを実施しています。

SDGs未来都市・横浜



横浜市担当者の声

本成果を展開することにより、横浜市内企業が持つ人材不足などの潜在的なニーズに対しての貢献や女性活躍支援など、SDGsのゴールの達成にもつながる可能性があると考えています。ぜひ、これからの新しい働き方、選択肢の一つとして、他の自治体・地域にも、広く展開していくことを願っています。



▲ショートタイムテレワーカーが実際に働く様子



ショートタイムテレワーク実証実験報告書

2019年3月1日から8月31日までの実験結果を取りまとめた報告書を公開しています。

ダウンロードは
こちらのページから



ショートタイムテレワーク ガイドブック

ソフトバンク
「ショートタイムテレワーク」
ガイドブック



2020年6月
ソフトバンク株式会社

「ショートタイムテレワーク」の導入を希望・検討される自治体さまと企業さま向けに、ショートタイムテレワークを始めるまでの20のポイントを記載したガイドブックを配布しています。希望の場合は下記のQRコードよりお申し込みください。

ガイドブックの内容について

- ショートタイムテレワークについて
- 事例：横浜市磯子区汐見台地区トライアル
- ショートタイムテレワークの目指す姿
- 導入検討（自治体編・企業編）
- 募集・採用・雇用
- コミュニケーションツールの整備

お申込は
こちらのページから



SoftBank

ソフトバンク株式会社

CSR本部 ショートタイムテレワーク事務局

Mail SBBGRP-sttw@g.softbank.co.jp

HP <https://www.softbank.jp/corp/csr/responsibility/diversity-inclusion/sttw/>